

ターナー 風景の詩^{うた}

最新知見で迫る 画業の全貌

北九州市立美術館 '17.11.03~'18.02.04 京都文化博物館'18.02.17~04.15
損保ジャパン日本興亜美術館 04.24~07.01 郡山市立美術館 07.07~09.09

「ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー」(1775~1851)は、19世紀前半に全盛期を迎えたイギリスを代表する風景画の巨匠で、欧州各地を旅して嵐の海景、聳え立つ山岳、穏やかな田園風景など、自然の様々な表情を革新的な技法で描くとともに、古代の美を呼び覚ます「歴史風景画」にも取り組み、イギリス史上“最も偉大な画家”といわれ、後世の芸術家に大きな影響を与えた。



《セント・オールバンズ・ヘッド沖》

1822年

水彩・紙

本展覧会は、「ターナーの画業」と「芸術の全貌」を、イギリス各地と日本の美術館から選りすぐって紹介する企画で、出品作のすべてが「ターナー作品」であり、最新の知見を基に再考してその革新と魅力に迫る企画で開催される。

画伯の輝くような光と空気の水彩・油彩・版画作品「約120点」を、「知誌的風景画」「海景・海洋国家に生きて」「イタリアー古代への憧れ」「山岳・新たな景観をさがして」という4つの章で構成されて展示・紹介されている。



《ソマーヒル、トンブリッジ》 1811年

水彩・紙



《モンデ・マリオから見たローマ》 1820年

水彩・紙